

Anti mouse GLP / Ehmt1 mouse monoclonal antibody

GLP: Euchromatic histone-lysine N-methyltransferase 1

| | |
|-----------|-------------|
| 製品コード | PP-B0422-00 |
| Clone No. | B0422 |
| Lot. | A-2 |
| 濃度 | 1mg/mL |
| 容量 | 100μL |
| Ig class | G2a |
| Genbank | AB205007 |

由来 マウスGLP (134-234 aa) の Baculovirus 発現物を免疫した BALB/c マウスの脾臓細胞と、マウスミエローマ細胞 (NS-1) を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスに接種して得られた腹水。

Epitope

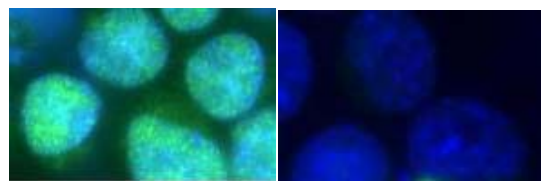
特異性 マウスGLPと特異的に反応する。ヒトGLPと交差反応する。その他の動物種との交差反応は未検討。

精製法 硫酸塩析法

溶媒 生理的食塩水(防腐剤として0.1% NaN₃添加)

Application 使用濃度は実験にあわせて至適化が必要です。

| | |
|------------------|------------------------|
| Western Blot | 可 参考使用濃度 0.5 μg/mL |
| 非還元 Western Blot | 未検討 参考使用濃度 - |
| ELISA | 可 参考使用濃度 0.1 μg/mL |
| 免疫沈降 | 可 参考使用濃度 適宜調製してください |
| Supershift Assay | 未検討 参考使用濃度 - |
| クロマチン免疫沈降 | 未検討 参考使用濃度 - |
| 免疫染色 | 可 参考使用濃度 5 μg/mL |



WTマウス ES細胞 (陽性) GLP KOマウス ES細胞 (陰性)

保存方法 1ヶ月程度の保存の場合は、2~8°Cで保存可能です。長期保存の場合は、抗体を小分けした上で、-20°C 以下での保存をお勧めします。また、凍結融解を繰り返すと、抗体が劣化し、本来の性能が得られない場合があるため、お避けください。

参考文献 Tachibana, M. *et al.* Genes Dev, 2005; 19(7): 815-26.

備考 溶媒に含まれるNaN₃は、鉛や銅と反応し爆発性化合物を形成する恐れがあります。廃棄の際には大量の水と一緒に希釈して廃棄してください。